

産業医慢性痛研修会

日時

2025年1月12日（日曜日）13時～16時

会場

川崎医科大学附属病院

臨床教育研修センター

演習室6

（倉敷市松島577）

＜定員40名＞

司会 川崎医科大学先端腫瘍医学 講師 西江宏行
コメンテーター 大阪公立大学人間社会システム科学研究科 准教授 岩佐和典先生

演題1

慢性痛に対する心理的アプローチと認知行動療法

細越 寛樹 先生

関西大学社会学部社会学科心理学専攻 教授

慢性痛とは、通常の経過または損傷の治療に必要とされる妥当な時間（一般的に3ヶ月以上）を越えてなお持続する痛みであり、心理社会的要因の関与が大きいとされる。慢性痛の治療では、痛みを0にしようとするのではなく、痛みを適切に管理した上で、生活の質（QoL）や日常生活動作（ADL）の向上を主目的とすることが望ましい。そのための有力な方法の一つに心理的アプローチがあり、中でも認知行動療法（CBT）は多くのエビデンスから高い推奨を受けている。本講演では、慢性痛に対する認知行動療法について、その概要をエビデンスと共に紹介したい。

演題2

慢性的な痛みが産業保健に与える影響と集団認知行動療法の有効性

吉野 敦雄 先生

広島大学保健管理センター/脳・こころ・感性
科学研究センター 准教授

慢性的な痛みは労働生産性の損失に深く関与している。例えばプレゼンティズムを引き起こす3大要因は、頸・肩の痛み、不眠、腰痛であり、2つは慢性的な痛みの性質を持つとされる。本発表では、慢性的な痛みがどのように産業保健に悪影響を与えているか主に心理・社会・脳からの視点で概括した上で、その対応策として痛みに対する集団認知行動療法の効果について解説したい。

演題3

健康経営に役立つマインドフルネスとコンパッション

笹良 剛史 先生

友愛会豊見城中央病院麻酔科部長・緩和ケア内科
全人的痛みセンター長

第3世代認知療法と言われるマインドフルネスとコンパッションに基づく介入は、燃え尽きの軽減、抑うつ・再発予防などハイリスク群への対応や、生産性とパフォーマンスの向上、職場環境の改善、従業員の幸福度と満足度の向上など、個別、集団での健康づくりにも効果が示されており、健康経営の推進に役立ちます。苦痛や苦悩を抱える患者さんと支援する医療者が、自他に優しく向き合えるマインドフルネスとコンパッションを用いた対話の実践を示します。

医師（産業医）研修会ですが、看護師、臨床心理士、理学療法士、薬剤師、医療系学生などの医療従事者、介護職の方など慢性痛に興味をお持ちの方はご参加いただけます。事前申し込みをお願いいたします。

産業医の単位が必要な方は、**2024年12月12日(木) 17:00までに**
お申し込みください。 <https://forms.gle/ZDNPNhLZsKhmVjJGA>

お問い合わせ：川崎医科大学附属病院 臨床腫瘍科

E-mail: sentan@med.kawasaki-m.ac.jp

086-462-1111（内線26508）

日本医師会認定産業医制度 生涯研修 専門：3単位

